



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ: ケリー国務長官の6回目の中東訪問

(報道取り纏め)

米国のケリー国務長官は、7月16日からヨルダンを訪問して、中東和平交渉再開に向けた仲介を開始した。同長官の中東訪問は、今回で通算6回目になる。ケリー国務長官は、16日アンマンでパレスチナのアッバース大統領と約5時間会談し、翌17日にも2回目の会談を行った。アッバース大統領は、会談後西岸に戻り、18日、ラマラでPLO幹部との会合を開催し、ケリー国務長官の提案について議論した。同会合では、直接交渉に戻るかどうかの結論は出ず、ケリー案を検討する委員会の設置が決定された。

ケリー国務長官は、17日にはアンマンでアラブ連盟の中東和平フォローアップ委員会メンバーと会談した。会談後、同代表団は、ケリー長官のイニシアティブを支持すると声明した。

17日、アンマンで記者会見したケリー国務長官は、イスラエルとパレスチナの交渉再開について、6月下旬に続き、再度、楽観的な見通しを表明した。同長官は、協議は静かに進めるのが最上の方法であるとして議論の詳細は明らかにしなかったが、協議の概要について触れ、3つの分野（政治、経済、安全保障）で議論をしていると説明した。同長官は、安全保障分野については、地域の安全保障問題について、中東和平特使ジョン・アレンス（John Allen、2013年4月に退役。前アフガニスタン・ISAF司令官）が、アラブ諸国も含めた関係国と協議をしているとした。経済分野については、大手コンサルタント会社がすでに事業案を検討しており、近く具体的なプログラムを発表したいとした。

シリア問題関連では、ケリー国務長官は、18日、ヨルダン北部のザアタリ難民キャンプを訪問した。同長官は、今回のヨルダン訪問の大きな目的の一つはアラブ連盟代表団とのシリアに関する協議を行うことであるとした。

ケリー国務長官は、ヨルダン滞在を1日延長して19日まで滞在すると報道されている。今回、ケリー国務長官は、イスラエルを訪問しておらず、イスラエル政府首脳とも会談していない。7月18日、オバマ大統領がネタニヤフ首相と電話会談を行い、直接交渉への復帰を要請したと報道されている。ホワイトハウスは、同電話会談は、両首脳が定期的に行っている通常の会談であるとしている。イスラエル政府は、ケリー国務長官の今回の訪問については特段のコメントをしていない。他方、イスラエルの右派政党で与党の「ユダヤの家」のナフタル党首は、18日、境界線の議論が67年休戦ラインを基礎に開始されるなら連立を離脱する構えを表明している。

(中島主席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799